

CONTENTS

2 特集／全国初！九州大学病院で「臨床教授制度」を用いた
共同事業を実施 ——内視鏡手術支援ロボットを用いた胃がん手術と講演会を開催

国際医療部長 清水 周次

4 連載／九州大学病院のTR
臨床研究中核病院の承認について
ARO次世代医療センター長 中西 洋一

5 九州大学病院の内視鏡外科手術 [第23回]
脳神経外科 講師 吉本 幸司 助教 迎 伸孝

6 医療法人宝歯会グループ かじわら歯科小児歯科医院
理事長 梶原 浩喜

補助人工心臓治療における病病連携
循環器内科 診療講師 肥後 太基

7 外国人の診療や通訳は、国際診療支援センターへ
ご相談ください

国際医療部 国際診療支援センター

初診患者の受け入れ手順変更について
医療連携センター



臨床教授制度を用いて招へいたヒョン・ウ・ジン延世大学病院教授と(左から2人目)、九州大学病院長ら



特集

左から、永井英司消化管外科(1)副科長、ヒョン・ウ・ジン延世大学病院教授、石橋達朗九州大学病院長、清水周次国際医療部長

全国初!九州大学病院で「臨床教授制度」を用いた共同事業を実施

——内視鏡手術支援ロボットを用いた胃がん手術と講演会を開催



国際医療部長

清水 周次

全国初! 臨床教授制度を用いて招へいた世界の第一人者が技術指導



九州大学病院は2月17日、福岡市との共同事業として胃がんのロボット手術分野では世界一の執刀経験をもつヒョン・ウ・ジン(Woo Jin Hyung)教授を韓国・延世大学病院から招いて手術を実施するとともに、海外の医療機関も参加した講演会を開催しました。

この共同事業は医療行為と技術指導を目的に、臨床教授制度を用いて高度な技術をもつ外国人医師を招へいた、全国でも初めての取り組みです。

福岡市はグローバルな創業・雇用創出を目的に国家戦略特区に認定され、外国人創業者や労働者に対する高度な医療の提供を都市の魅力向上の一環として捉え、この事業をその活動の一つとして位置付けています。



講演会当日、ロボット(da Vinci)を用いた胃がん手術に臨むヒョン教授[左]と永井副科長



ヒョン教授。ロボット(da Vinci)の前で

講演会をアジア3か国の医療機関へ同時配信



当日、850件の症例経験があるヒョン教授は九州大学病院でロボット手術を実施し、立ち会った九州大学病院の医師へ技術指導を行いました。

講演会には医療関係者・学生約80人が集まり、九州大学病院から日本の胃がんのロボット手術の現状について報告をし、続いてヒョン教授がこの分野での今後の世界的な見通しを紹介しました。またこの講演会はインターネットでタイ(マヒドン大学)などアジア3か国の医療機関へ同時配信され、約30人の医師も参加しました。ヒョン教授との質疑応答が交わされるなど、最先端の技術と知識を獲得することへの関心の高さがうかがわれました。

先端医療の普及と国際化の更なる推進



今回この共同事業を推進した国際医療部は昨年4月に九州大学病院に新設された部署で、本事業のような海外からの受け入れや派遣など人事交流や人材育成を担当する「海外交流センター」、遠隔医療教育を展開する「アジア遠隔医療開発セン

ター」、外国人患者の受け入れを担当する「国際診療支援センター」の3組織より構成されています。

2016年度は、アメリカで活躍する膵臓領域の第一人者の招へいを計画し、先端的医療の普及や国際化の更なる推進に努めます。

また遠隔教育はとくに海外との物理的な移動に伴う時間とコストの問題を解決し、日本に居ながら日常的に国際的感覚を磨く手段として、今後も積極的に利用していく方針です。



左から、司会の中村雅史消化管外科(1)科長と清水周次国際医療部長



講演中のヒョン教授



インターネットを通して質問するフィリピン・セントルークス病院の医師



全国初の開催に、マスコミの注目も集まった



ヒョン教授の最新の知見に聞き入る聴衆

臨床研究中核病院の承認について



ARO次世代医療センター長
中西 洋一

本年1月27日、九州大学病院は、厚生労働省から医療法に定める「臨床研究中核病院」として指定承認されました。

世界一の高齢社会となったわが国が、これからもその存在感を示し、活力に満ちた社会を構築していくためには、健康寿命の延伸を実現することが最重要課題です。そこで、日本の将来を担う重点政策に「ライフ・イノベーション」が取りあげられ、それを実現するために「健康・医療戦略推進法」が制定され、これを強力に推進するための司令塔として「日本医療研究開発機構（AMED）」が設立されました。

具体的には、①関節運動器疾患 ②呼吸循環器疾患 ③糖尿病をはじめとした生活習慣病 ④認知症をはじめとした精神神経疾患 ⑤悪性腫瘍の克服の5つが大きな目標とされています。また、再生医療やゲノム医療などの画期的医療技術の開発も重要課題です。

司令塔であるAMEDと連動して、現場を担う拠点が臨床研究中核病院であり、「革新的医薬品・医療機器の開発等に必要となる質の高い臨床研究や治験を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担うこと」が求められています。具体的には右記のような事業を適正かつ強力に推進する必要があります。

- 1) 病院管理者を中心とした研究管理体制（ガバナンス体制）
- 2) 臨床研究支援体制（ネットワークの構築を含む）
- 3) データ管理体制
- 4) 安全管理体制
- 5) 倫理審査体制
- 6) 利益相反管理体制
- 7) 知財管理・技術移転体制
- 8) 国民への普及・啓発および研究対象者等への相談体制

九州大学病院では、ARO次世代医療センターが中心となって、臨床研究中核病院としての責務を果たしていくこととなります。140名程のスタッフの強固な連携の下で上記業務を遂行しています。また、新しく始まる「患者申出療養」への対応も臨床研究中核病院の使命ということで鋭意準備中です。

とはいえ、臨床研究は、支援組織だけで完結できるものではありません。すべての診療科の医師、臨床研究を支援するメディカルスタッフ、病院内の全部局、外部医療機関の医療スタッフ、基礎医学研究者、そして何よりも患者さんとそのご家族の理解・協力があってこそ適切な臨床研究の推進・新しい医療の開発が叶います。皆さんと一緒に明日の医療を創り上げていくことが最終のゴールです。

臨床研究中核病院の役割とARO



内視鏡シリーズ 内視鏡外科手術 [第23回]

脳神経外科 講師 吉本 幸司 助教 迎 伸孝

シリーズ第23回目は脳神経外科で行われている内視鏡手術について、脳神経外科 講師 吉本幸司と助教 迎 伸孝が解説します。

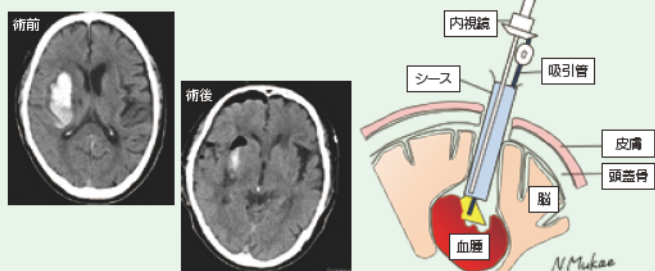
脳神経外科で使う内視鏡は神経内視鏡と呼ばれ、1910年代から開発の歴史がありますが、1980年代以降、CTやMRIといった画像検査で脳の病変がはっきりと分かるようになってからは、脳深部の病変に対する手術が患者さんへの負担が少なくできることから、その重要性がさらに高まり、今では脳神経外科にはなくてはならないツールとなっています。

神経内視鏡には、硬いまますぐな金属でできた硬性鏡と、胃カメラのように軟らかい素材でできていて先端が曲がる軟性鏡があり、場所や目的に応じてこの二つを使い分けています。

硬性鏡を使う手術

① 高血圧性脳出血

高血圧性脳出血は脳の至るところに起きますが、出血の量が多く、貯まった血液(血腫)の除去で状態の改善が見込まれる場合には血腫除去手術をすることがあります。基本的には開頭血腫除去術が行われますが、最近では神経内視鏡を用いた低侵襲手術も行われています。神経内視鏡を使った脳出血への手術では、10円玉程度の穴を頭蓋骨に開けて血腫に硬性鏡を挿入し、硬性鏡で内部を確認しながら血腫除去・止血を行います。皮膚切開・骨を開ける範囲が少なく、血腫まで短時間に到達できる利点があります。しかし神経内視鏡による血腫除去術よりも開頭血腫除去術が適切な場合もあり、症例ごとに手術方法を決める必要があります。

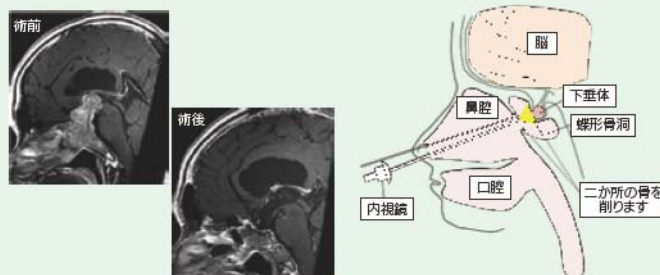


内視鏡による脳内血腫除去術の模式図・手術前後のCT

② 下垂体周辺の腫瘍の手術

頭のちょうど中央部、目の奥にあたる場所に生命維持に必要な物質=ホルモンを微量に分泌する下垂体があります。この下垂体そのもの、または周辺に腫瘍ができることがあります。以前よりこの部位には鼻から蝶形骨洞という部位を通してアプローチし、顕微鏡をのぞきながらする手術(Hardy手術)が行われていましたが、最近では内視鏡手術が行われています。内視鏡手術では手術して

いる部位を細かく、さまざまな方向を見ることができます。このため、下垂体への手術だけではなく、以前は開頭術に頼るしかなかった下垂体周囲にできた髄膜腫(鞍結節部髄膜腫)や頭蓋咽頭腫に対してもアプローチすることができ、拡大蝶形骨洞手術として適応が広がっています。

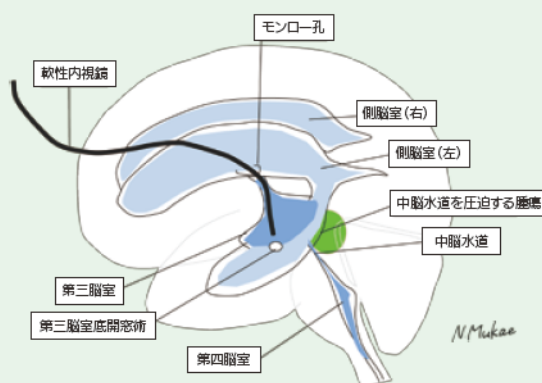


下垂体の手術模式図・術前後のMRI

軟性鏡を使う手術

水頭症に対する手術・脳室内腫瘍に対する手術

水頭症とは頭の中に何らかの原因で髄液がたまり、脳機能の低下をきたす病気です。原因はさまざまですが、その中でも、髄液の通り道である Monroe 孔・第三脳室・中脳水道を塞ぐように腫瘍ができたり膜が張るなど流れがせき止められた「閉塞性水頭症」に対して、軟性鏡を使った手術を行うことがあります。具体的には、左右の側脳室の間をつなげる「透明中隔開窓術」や、第三脳室の底部に穴をあけて髄液の流れを作る「第三脳室底開窓術」が行われ、また、診断をつけるために腫瘍の生検術も内視鏡下に行うことがあります。



第三脳室底開窓術の模式図

神経内視鏡 最近のトピック

近年の画像機器の進歩により、神経内視鏡の解像度が飛躍的に高まっています。九州大学病院脳神経外科ではフルハイビジョンの画質を有する内視鏡や、立体的な構造を把握できる3D内視鏡を導入し、より安全で正確な手術を心がけています。

内視鏡手術の適応に関するご相談・ご紹介は随時・受け付けています。脳神経外科外来までお気軽にお問い合わせください。

TEL: 092-642-5533 (初診日・再診日:月・水・金) 初診は要紹介状

脳神経外科 <http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/shinryo/geka/06/index.html>

医療法人宝歯会グループ かじわら歯科小児歯科医院



理事長 **梶原 浩喜**

医療法人宝歯会グループは、1992年、北九州市若松区に本院を開設した事に端を発し、福岡県を中心に福岡11医院、山口2医院、広島2医院、岡山1医院ほか、障害者支援施設を展開する歯科医療グループです。

外来歯科診療はもちろんのこと、介護施設や障害者施設、精神科病院などでの訪問歯科診療も積極的に行い、年間50万人の患者さんと関わっています。

また、医療の質の向上のため、臨床研修医または研修修了後の研修・指導に力を注ぎ、研修用の施設も併設しています。

地域医療連携においては、福岡市近郊エリアの当グループ7医院(古賀・新宮・穂波・愛宕浜・伊都・筑紫野・小郡)が、九州大学病院にお世話になっています。

各診療科の医局からも歯科医師の派遣をいただき、日々の診療から連携に力を入れ、患者さんの紹介を円滑に行うことができるよう体制を整備しています。今後も、患者さんのニーズを満足させることができるよう、より一層の連携を強めていくことが重要だと考えています。



かじわら歯科小児歯科医院外観



診療室



ひまわり研修室

すべて「医院建築」より

補助人工心臓治療における病病連携



循環器内科 診療講師 **肥後 太基**

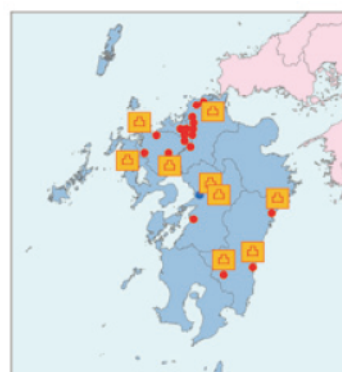
九州大学病院は九州一円の病院から多くの重症心不全患者さんの紹介を受け、すでに30数名が植込型補助人工心臓治療を受けてこられました。

植込型補助人工心臓のおかげで、患者さんは退院して通常のご家庭生活や社会生活を送りながら、心臓移植を待機することが可能になりました。しかし、移植まで3年-5年と言われる長期の待機期間中、患者さんがもとの住み慣れた地域で安心して過ごすこと、またご家族の介護に要する肉体的精神的負担を軽減することはたいへん大きな課題です。

本院では院内での多職種医療者連携による患者さん・ご家族のサポートで培った経験をもとに、多職種による補助人工心臓患者さんご家族のサポート体制を九州全域に広め、九州各県の大学病院や9つの地域中核医療機関のスタッフと連携し、患者さんの管理を協力して行っています。

月に一度、本院を受診してもらいつつ、地域の医療機関においてよりこまめな受診や短期間の入院、緊急時の初期対応、外

来通院リハビリテーション、在宅訪問看護などで連携し、患者さんご家族が地元で安心して過ごすことができるように心がけています。このような補助人工心臓治療の広域病病連携は先進的な取り組みとして全国から注目されています。



- 北九州市** JCHO九州病院
- 佐賀市** 佐賀県医療センター好生館
- 唐津市** 唐津赤十字病院
- 伊万里市** 伊万里有田共立病院
- 熊本市** 済生会熊本病院
熊本県立中央病院
- 都城市** 都城市郡医師会病院
- 宮崎市** 宮崎生協病院
- 延岡市** 県立延岡病院

在宅植込型補助人工心臓装着患者と地域協力病院

外国人の診療や通訳は、国際診療支援センターへ ご相談ください



国際医療部 国際診療支援センター

アジアへの玄関口、福岡はますます国際化されてきました。来日中に重い病気やけがで困っている外国人、日本の先進的な医療を求める海外在住の患者さんへ適切に対応するために、九州大学病院では国際医療連携室を2015年度に改組し、国際医療部 国際診療支援センターとして、活動を拡大しました。

九州大学病院は、福岡県・市と国際医療の分野でこれまで連携を図り、2014年度、2015年度には厚生労働省「医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業」への採択を受け、英語、中国語の常勤通訳2名が、病院内を飛び回り、丁寧な通訳・翻訳に努めています。また、全国国立大学病院の海外患者受け入れ窓口事務局も担当し、専属医師（臨床助教）がホームページ経由で医療の内容に踏み込んだ受診の問い合わせや要望に応じながら、外国人患者さんと日本の先進医療の架け橋になっています。

国際診療支援センターでは、地域在住の外国人患者さんにも役立ちたいと考えています。通訳の依頼、受診の相談など、お困

りの際はぜひご連絡ください(092-642-4231)。外国人患者さんからの直接の受診依頼は、和、英、中国語に対応した国立大学病院の国際医療連携ネットワークの窓口ホームページ(<http://kokusai.hosp.kyushu-u.ac.jp/>)をご紹介ください。



国際診療支援センタースタッフ

初診患者の受け入れ手順変更について



医療連携センター

九州大学病院はがん医療や難病などの高度な医療を提供する高度急性期病院です。

高度急性期病院は地域の中核病院として高い水準の医療を提供するとともに、地域の医療機関と連携して、高度医療が必要な患者さんを積極的に受け入れることが求められています。

この役割を果たすために、九州大学病院では2016年7月1日より、医科の初診の患者さんの受け入れを原則、紹介元医療機関からの予約制に変更することになりました。

これにより、地域医療機関との正確な医療情報の交換が可能になり、高度医療が必要な患者さんが、効率よく九州大学病院を受診できるようになります。また、退院後の地域医療機関との連携もスムーズになります。

紹介の際は、「初診予約申込書」と「診療情報提供書」を本院の予約センターにFAXでお送り下さい。

おって、「予約報告票」「受診予約票」をFAXでお送りします。詳細については、本院ホームページをご覧ください。

なお、歯科の初診につきましては、従来どおりの運用で変更はございません。

九州大学病院
紹介予約制
— 予約受付窓口 —
予約センター
受付時間 9:00-16:00
(土日祝日、12月29日-1月3日は除く)
TEL:092-642-5508
FAX:092-642-5509



お問い合わせ先 九州大学病院 医療連携センター TEL:092-642-5165

学会・セミナーのご案内

開催日	大会・会議の名称	
2016年 7月23日(土)・24日(日)	第26回日本サイトメトリー学会学術集会 — サイトメトリー新時代 http://www.gakkai.co.jp/26jcs2016/	【会 場】九州大学医学部百年講堂 【主 催】九州大学病院 産科婦人科 【連絡先】TEL:092-642-5394 FAX:092-642-5414
2016年 8月20日(土)・21日(日)	第17回アジア心身医学会 http://17thacpm.jp/	【会 場】九州大学医学部百年講堂 【主 催】九州大学病院 心療内科 【連絡先】TEL:092-642-5316 FAX:092-642-5336
2016年 8月27日(土)	第36回小児病理研究会学術集会 http://www.jspp.info/	【会 場】九州大学医学部中央会議棟多目的会議室 【主 催】日本小児病理研究会 【連絡先】TEL:092-642-6061

[九州大学病院の 理念・基本方針]

理 念

患者さんに満足され、
医療人も満足する医療の提供ができる
病院を目指します

基本方針

- ▶ 地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
- ▶ プライマリ・ケア診療の充実
- ▶ 全人的医療が可能な医療人の養成
- ▶ 専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
- ▶ 国際化の推進

平成28年:6月発行
企画・発行/九州大学病院広報委員会
福岡市東区馬出3-1-1 TEL:092-641-1151 (代表)

九州大学病院ホームページ
<http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp>